

# 名チューナーが明かすバトルポテンシャルのすべて

スカイラインGT-Rは、現在最強のマシンだけれど、まだポテンシャルは秘められている。それは、最もお手軽なマフラーチューンからエンジン本体にも手を加えるフルチューンまでの走りを見てきたことからも理解できると思う。しかし、チューンの方法はまだまだある。東西を代表する名チューナーの必殺ステップアップ術を中心に、もう一度“R”的スゴさを振り返ってみよう。

## menu

- ドキュメント 谷田部
- ショップお薦め“R”
- 予算別チューニング
- チューニング用語の基礎知識



## 覚醒チューンドGT-R車団 PART II

前書きはこれくらいにして、本題に入ろう。チューンドGT-Rのゼロヨンタイムはちょうど人間の100mスプリントにあてはまるのではないか。つまり、基準タイムはノーマルの13・13秒。これは普通の男子が100m走った場合。“ヨイ速い”というレベル。これが12秒台になると“速い”。という水準に達する。そして11秒台、これは11・5秒を境に前半と後半に分かれる。後半でも普通の人じや出せないタイムだ。それなりの訓練と素質がなければ、突入できない。前半ともなれば、これはもう国体レベルだ。スプリントを経験した人なら分かると思うが、このあたりのコンマ一秒は最も厳しい。ましてや10秒台、これは努力だけじゃ達成できない驚異のタイムだ。

今まで話してきたスプリンターをチューンドGT-Rにあてはめれば、大体そのスゴさのイメージがつかめるハズだ。それを念頭に入れて、振り返ってみると、それぞれの目標

今回の企画主旨は、ショップ対抗のゼロヨン大会ではない。東西の名チューナーを集めたゼロヨン大会を開催すれば、カリカリのマシンが出揃い、10秒の争いになることは必定だ。それはそれで興味はひかれるし面白いのだが、それより「どのくらいチューニングを施せば、どのくらいRは速くなるのか、そしてその費用は?」の方がより現実的だと考えた。これが今回の企画主旨となっている。そのために、ショップの方々には、腕自慢のマシンよりもチューニングの個性を主張するGT-R改を用意していただいた。早い話が、ムリなお願いをしたわけだ。

ライトからフルまで。“R”がゼロヨンにアタック

4月4日

晴 気圧1015 mbール  
湿度42% 気温18・9度C  
路面温度28度C 路面ドライ

ドキュメント 谷田部